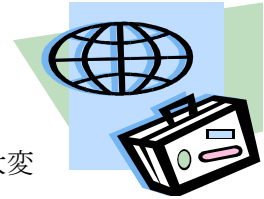


在日外国人のリレー相談会から

今月は私が会員として活動しているTMCのことについてご紹介します。TMCとはTachikawa Multicultural Centerの略で「たちかわ多文化共生センター」というNPO法人で、在日外国人の支援を活動の柱にしています。同時に日本人も外国人の生き方や文化を理解し共生していこう、といった趣旨も含んでいる。

活動の拠点はJR立川駅から徒歩5分の立川市図書館の建物の5階「アイム」。ここで私も昨年まで6年間ほど月に1回、海外相談室の担当をしていました。TMC全体の大きな行事としては例年7月に行われる「リレー相談会」と10月の「世界ふれあい祭り」の二つです。

今年の相談会は7月4日の土曜日に「アイム」で開催されました。これは「リレー」の名の通り、都内の各区と三多摩は武蔵野、町田、八王子、西東京市、そして立川で毎月交代で行われている相談会で大変な力が入っています。



案内チラシのタイトル「外国人のためのリレー専門家相談会＝無料」とあるように、4日の相談会には、専門家として弁護士が5人、行政書士3人、社会保険労務士1人、社会福祉士2人、教育相談員1人、税理士1人の計13人。通訳ボランティアとして中国語5人、英語7人、スペイン語3人、ポルトガル語2人、フランス語1人、ハンガリー語1人、ロシア語1人、タガログ語1人、インドネシア語1人の計17人でした。その他、運営スタッフとして14人がボランティアで入っていて総勢40人を超える態勢です。

この日の相談者は17人。出身国別では中国、韓国、コロンビア、アメリカ、ペルー、ロシア、フィリピン、スペイン、ザンビアの9カ国。それぞれほぼ満足できる相談結果を持って帰られたのではないかと考えています。相談内容はすべて秘密にされていますが、おおまかに分類すると、ビザの問題、労働環境の問題（正当に扱ってもらえない）、離婚問題、子供の教育課題など。立川市ばかりでなく都内からも三多摩の他市からも相談にきていました。私自身は子供の不登校に悩んでいる問題について、教育相談員との対話のスペイン語通訳にあたったところです。

現在、立川市には約3000人、昭島市には約2000人の外国人が住んでいます。地元昭島ではゴミの回収袋に日本語のほかに英語、中国語、韓国語、スペイン語の4言語で書かれていてこれでどこの国の人が多いか大体の判断はつきます。スペイン語はスペイン本国というより中南米の18カ国の人が対象でしょう。

10月の「世界ふれあい祭り」は立川市の産業まつり〔楽市〕と合わせて同じ会場で行われます。15～20の大使館からの出店もあり<7年ほど前に私が提案、軌道にのってきたところ>、また外国人を対象に日本の着物での撮影会もあったりして結構な人気と盛り上がりを見せています。

日本の将来の労働供給力を見たとき、これから外国人がもっと増えてくるのは必然の流れです。そこで大事なことは、お互いを理解し尊重していく共生の社会を築いていくこと。その一助になればと、また地元市でもいつかそうした活動ができる可能性を探るためにも、お隣の市の行事に参加している次第です。

